

『ポケットスタディ プロジェクトマネージャ』
＜正誤表＞

- 12 ページ ○試験のスケジュールの注1
【誤】 「午後Ⅰ免除」が認められた受験者
【正】 「午前Ⅰ免除」

- 30 ページ 表「午前Ⅱの出題傾向」 矢印上の枠内の文字
【誤】 午後Ⅱ試験開始
【正】 午前Ⅱ試験開始

- 43 ページ 表の下 出題頻度の凡例 最終行
【誤】 (詳細については、別紙「XXXXXX」を参照。)
【正】 上記文言は不要につき削除

- 56 ページ 本文 下から3行目
【誤】 主のような内容が記載されます。
【正】 次のような内容が記載されます。

- 61 ページ 中段の表「①発生した状況」
【誤】 似た問題による任質低下
【正】 似た問題による品質低下

- 63 ページ 中段の表「①発生した状況」
【誤】 似た問題による任質低下
【正】 似た問題による品質低下

- 65 ページ 本文 下から2行目
【誤】 過去問題の前文を印刷し
【正】 過去問題の全文を印刷し

- 83 ページ 表の [計画] - [プロセス] 1行目
【誤】 マネジメント計画書成
【正】 マネジメント計画書作成

- 84 ページ 本文下から3行目
【誤】 「コストの見積り・予算化」【→21】
【正】 「コスト見積り・予算化」【→21】

- 101 ページ 表のテスト工程(単体テスト、結合テスト、総合テスト等) 1～2行目
【誤】 $\text{テストケース作成予定件数} \div \text{作成件数}$
 $\text{テスト実施予定件数} \div \text{テスト実施件数}$
【正】 $\text{作成件数} \div \text{テストケース作成予定件数}$
 $\text{テスト実施件数} \div \text{テスト実施予定件数}$

- 102 ページ 演習 18-1 最終行
【誤】 (H22 春 PM 午前問 8)
【正】 (H22 春 PM 午前Ⅱ問 8)

- 106 ページ 17行目
【誤】 という報告があった。E課長は、新規案件の開発は、
【正】 という報告があった。B課長は、新規案件の開発は、

- 117 ページ 1行目
【誤】 7. 限られた時間帯でのシステム移行
【正】 7. 限られた時間内でのシステム移行

- 123 ページ ○コストの予算化 3行目
【誤】 るか」を明らかになります。
【正】 るか」が明らかになります。

- 130 ページ 表「1月、2月の各指標」 1月のUチームのACの値
【誤】 1月のUチームのACの値 5
【正】 1月のUチームのACの値 1

●131 ページ 問題文の欠落

【訂正】 問題文が一部欠落しています。「図 2 指標の推移」の下に以下の文を追加します。

M課長は、5月末時点で、4月のEACは147.4百万円、5月のEACは146.5百万円となったことを確認し、対策によって、スケジュールの遅れによるコスト悪化も回避できそうであると判断した。そして、この後は、これ以上PVを変更することなしに、現状のPVを目標とした管理を行うことにした。

●141 ページ チャンス問題一覧 表内「17年37問」

【誤】 災害による処理中断時間と再策費用、
【正】 災害による処理中断時間と対策費用、

●143 ページ 1つ目の表「リスク・問題・目標」

【誤】 数値が実態合わなくなる
【正】 数値が実態に合わなくなる

●145 ページ ○出題傾向 最後の行

【誤】 まとめていくこと方法が有効です。
【正】 まとめていくことが有効です。

●148 ページ 「レビューとは」 2行目

【誤】 技術的評価をに基づく指摘を行う
【正】 技術的評価に基づく指摘を行う

●153 ページ 表内「3点見積り法」 説明

【誤】 (楽観値+最頻値×4+観値)
【正】 (楽観値+最頻値×4+悲観値)

●154 ページ 「Key Word」 2行目

【誤】 レビューに関する品質計画
【正】 テストに関する品質計画

●154 ページ 図の右側にある説明 上から1つ目と2つ目

【誤】 (実際の運用環境で正常に
(システム全体として正常に)
【正】 (実際の運用環境で正常に)
(システム全体として正常に)

●156 ページ 2つめの小見出し

【誤】 レビューに関する品質計画
【正】 テストに関する品質計画

●162 ページ 図1内「新システム開発」の7月～8月中旬の作業名

【誤】 統合テスト
【正】 結合テスト

●170 ページ 本文5行目

【誤】 CIOから呼びかけることに回避したいリスク
【正】 CIOから呼びかけることで回避したいリスク

●180 ページ 本文2行目

【誤】 【→29】を利用しますが、
【正】 【→28】を利用しますが、

●182 ページ 下から3行目と2行目、183ページの図

【誤】 相関図
【正】 散布図

●188 ページ 下の表内「取るべき対応」の下のセル1行目

【誤】 契約書に"キュメント管理基準に
【正】 契約書にドキュメント管理基準に

●192 ページ 真ん中の表内「リスク・問題・目標」の下のセル1行目

【誤】 保守性が発生する
【正】 保守性の低下が発生する

●192 ページ 下の表内「リスク・問題・目標」の下のセル1行目

【誤】 保守性が発生する
【正】 保守性の低下が発生する

- 193 ページ 最上段の表内 「取るべき対応」
【誤】 総合テスト環境を早い段階で構築し、結合テスト等の前工程から、総合テスト環境を用いて
【正】 システムテスト環境を早い段階で構築し、結合テスト等の前工程から、システムテスト環境を用いて
- 203 ページ 表「プロジェクト組織の例」 「組織の種類」最後のセル
【誤】 機能部門別組織
【正】 職能部門別組織
- 207 ページ 【解答が②と③の式の交点であると想定した場合】の2行目
【誤】 $y \geq 20/3$
【正】 $y \geq 10/3$
※上記修正に伴う追加解説
【解答が②と③の式の交点であると想定した場合】において、上記修正を踏まえ、
 $y \geq 10/3$ となると $x + y = 20/3 + 10/3 = 10$ となりますが、『 $x + y$ の最小値が「10」である』という解答
アが採用できるか、すなわち【解答が②と③の式の交点であると想定した場合】の想定が正しいか？
について次の検証を行います。
ここで、 $x = 20/3$ $y = 10/3$ で必要な単位が満たせるかを検証すると
 $a = 5x + 8y = 100/3 + 80/3 = 60$
 $b = 5x + 2y = 100/3 + 20/3 = 40$
 $c = x + 4y = 20/3 + 40/3 = 20$
となり、スキル a の単位を満たすことができないため、これは解答として採用することができません。
したがって、【解答が②と③の式の交点であると想定した場合】における『想定』が正しくなかった、
ということになり、正解は【解答が②と③の式の交点であると想定した場合】において算出した $x + y$ の
最小値である「12」となります。
- 207 ページ Point check 選択肢イ
【誤】 メンバで v 構成されるチーム
【正】 メンバで構成されるチーム
- 209 ページ 表 説明 1行目
【誤】 人間の行動は要求に基づくとする理論。要求を低次元から
【正】 人間の行動は欲求に基づくとする理論。要求を低次元から
- 211 ページ 本文 下から 11行目
【誤】 外部設計は委任契約、
【正】 外部設計は委任契約、
- 212 ページ 図 2 開発スケジュール
【誤】 総合テストの準備、総合テストの実施
【正】 結合テストの準備、結合テストの実施
- 216 ページ (2)リスクを軽減する理由 5行目
【誤】 リスクを軽減する効果のはなぜか
【正】 リスクを軽減するのはなぜか
- 221 ページ 1行目の表見出し
【訂正】 「2. 組織要員管理(開発メンバのアサイン)に関する解答パターン」という表のタイトルは不要につき削除。
これに伴い、222～224 ページの表タイトルの番号は1つずつずれる。
- 248 ページ 平成 21 年度午後 I 問 1 の表
【誤】 影響力
【正】 影響度
- 249 ページ Point check 3行目
【誤】 繰り返しして
【正】 繰り返し返して
- 269 ページ 図の右下枠内
【誤】 午前 II で出題
【正】 午後 II で出題
- 269 ページ 図の「実行」欄
- 270 ページ Key Word 1行目
【誤】 納入者解答依頼
【正】 納入者回答依頼
- 281 ページ 8行目
【誤】 提案価格が総低価格より高い場合、
【正】 提案価格が想定価格より高い場合、

- 282 ページ 下から 6 行目
【誤】 「[a] 場合の問題」は、提案価格が
【正】 「[c] 場合の問題」は、提案価格が
- 289 ページ 表内 「委任契約」の「指揮系統」
【誤】 委託者が作業者に指示を行う
【正】 受託者が作業者に指示を行う
※指揮系統については「請負契約」と「委任契約」は同じ。
- 293 ページ 表 1 の下 本文 3 行目
【誤】 その点について十分稼確認が
【正】 その点について十分**な**確認が
- 305 ページ 1 つ目の表内「発生した状況」
【誤】 調整不足の**点が存在する**状態
【正】 調整不足の状態
- 305 ページ 3 つ目の表内 「発生した状況」内
【誤】 利用する前提でのシステムを**開発**について、
【正】 利用する前提でのシステム開発について、
- 306 ページ 1 つ目と 2 つ目の表内 「取るべき対応」内
【誤】 意義を申し立てる
【正】 **異議**を申し立てる
- 312 ページ 本文 2 行目
【誤】 リリース管理構成管理の
【生】 リリース管理、構成管理の
- 315 ページ Point check 選択肢ア
【誤】 変更諮問委員 (CAB)
【正】 変更諮問委員**会** (CAB)
- 332 ページ ①BPMN 1 行目
【誤】 BPMN (Business Precess Modeling Notation : ビジネスプロセス・モデリング表記法)
【正】 BPMN (Business Pro**cess** Modeling Notation : ビジネスプロセス・モデリング表記法)
- 339 ページ 本文 1 行目
【誤】 経営環境に**変化**により
【生】 経営環境**の**変化により
- 342 ページ 本文 下から 3 行目
【誤】 DEF や E-R 図では、
【正】 **DFD** や E-R 図では、
- 366 ページ表内および本文下から 3 行目
- 367 ページ表内
【誤】 著作人格権
著作**者**財産権
【正】 著作**者**人格権
著作財産権
- 367 ページ 表内 主な出題ポイント 3 行目
【誤】 著作物の変更を行う際には著作**差**の承諾
【正】 著作物の変更を行う際には著作**者**の承諾
- 367 ページ 表内「著作権」 主な出題ポイント 6 行目
【誤】 (1) プラグラム・ソースコード
【正】 (1) プ**ロ**グラム・ソースコード
- 372 ページ 不正アクセス禁止法 本文 1~2 行目
【誤】 他人の識別符号や別符号**以外**の情報
【正】 他人の識別符号や**識**別符号**以外**の情報
- 372 ページ 中段「主な出題ポイント」3 行目
【誤】 破らなければ**は**不正アクセスとは
【生】 破らなければ不正アクセスとは

- 373 ページ プロバイダ責任法「主な出題ポイント」最終行
【訂正】 最終行「電話・FAX・電子メール等の通信全般が通信傍受の対象となる。」は不要につき削除します。
- 375 ページ Chance 問題 選択肢エ
【誤】 エ 派遣元事業主
【正】 エ 派遣先事業主
- 376 ページ 表内「個人参加の原則」
【誤】 意義を申し立てられる
【正】 異議を申し立てられる
- 392 ページ 中段の図 2つ目の吹き出し内 2行目
【誤】 2.X. Xの段階まで展開し、
【正】 2.X. Xの段階まで展開し、
- 393 ページ 章立て作成例
【訂正】 章番号のインデント位置と番号に誤りがあります。正しくは以下の通りになります。

章立て作成例(平成 21 年度午後Ⅱ問3)

1. 私が関わった情報システム開発プロジェクト
 - 1.1 情報システム開発プロジェクトの特徴
 - 1.2 採用した業務パッケージとその採用目的
2. 外付けプログラムの開発について
 - 2.1 外付けプログラムの開発が必要となった理由
 - 2.1.1 理由 1
 - 2.1.2 理由 2
 - 2.2 開発を必要最小限に抑えるために利用部門と合意した経緯と内容
 - 2.2.1 経緯と内容 1
 - 2.2.2 経緯と内容 2
 - 2.3 開発した外付けプログラムの概要
 - 2.3.1 外付けプログラム 1 の概要
 - 2.3.2 外付けプログラム 2 の概要
3. 外付けプログラムの開発における工夫と成果及び改善点
 - 3.1 業務パッケージ採用の目的を達成するために行った工夫
 - 3.2 業務パッケージ採用の目的を達成するために工夫を行った成果
 - 3.3 外付けプログラムの開発に関する今後の改善点

- 399 ページ 本文 2行目
【誤】 章立て例が【71】にあります
【生】 章立て例が【70】にあります
- 400 ページ 本文 15行目
【誤】 (執筆における要件事項どおり、
【正】 (執筆における要求事項どおり、
- 403 ページ 4行目
【誤】 原点覚悟で
【正】 減点覚悟で
- 404 ページ 表内「2.1.1 決裁を伴う発注業務」 1行目
【誤】 B社では、発注を行うにあたり
【正】 A社では、発注を行うにあたり
- 405 ページ 表内 5行目
【誤】 “外付けプログラム”
【正】 “外付けプログラム”
- 415 ページ 表内
【誤】 1.2 合意が得られたシステム部門の作業
【正】 1.2 合意が得られたシステム利用部門の作業
- 416 ページ 論文執筆例 1行目
【訂正】 「2.1」の上に以下の見出しを追加します。

2.プロジェクト遂行中に発生した問題及びその原因・対策について

- 417 ページ 論文執筆例 下から13行目
【訂正】 「3.1」の上に以下の見出しを追加します。

3.今後の対策及びその評価・改善点について

- 429 ページ 設問イ
【誤】 2.予算の超過に常がる予兆と、
【正】 2.予算の超過につながる予兆と、
【誤】 2.1 私が発見した予算の超過につがる兆候
【正】 2.1 私が発見した予算の超過につながる兆候

- 443 ページ
<小分類「進捗管理」の「例えば」 4行目>
【誤】 問題の発生と解決の状況
【正】 問題の発生や解決の状況

- <小分類「コストの超過防止」の「例えば」 2行目>
【誤】 成果物に関する関係者の不備
【正】 成果物に関する関係者の不満

- <小分類「品質管理全体」の「例えば」 3行目>
【誤】 品質上の目標随順に応じて、
【正】 品質上の目標水準に応じて、

- 445 ページ 小分類「プロジェクトにおける連帯意識の形成」の「例えば」 最終行
【誤】 開発現場の雰囲気を確認。
【正】 メンバ間のコミュニケーションを確認。

<本書サポートサイト>

<http://www.shuwasystem.co.jp/support/7980html/2816.html>

<秀和システム>

<http://www.shuwasystem.co.jp/>